

寒い冬にはガス給湯器の凍結にご注意ください

ガス給湯器には、凍結予防ヒーターが装備され、自動で機器内部の凍結予防を行うことのできる機種もありますが、この時期、特に気温の下がる夜間や早朝時には、ガス給湯器や配管内の水が凍結して、お湯が出なくなることがあります。

ご参考として、ガス給湯器の凍結予防方法等についてお知らせいたしますので、お役立てください。

凍結予防方法

ガス給湯器の給水・給湯配管に、保温材などの凍結を防止する措置が取られていない場合、風の強い日などでは気温が氷点下にならなくても、配管内が凍結してお湯が出なくなるおそれがありますので、保温材で巻くなど凍結防止の対策をお取りください。

特に冷え込みの厳しい日の凍結予防について

冬場の低温注意報発令時や特に冷え込みの厳しいときは、保温材の対策を行っても、給水・給湯配管やガス給湯器内部が凍結してしまうおそれがあります。

その際には、以下の処置を行うことで、給水・給湯配管およびガス給湯器内部の凍結を予防できます。

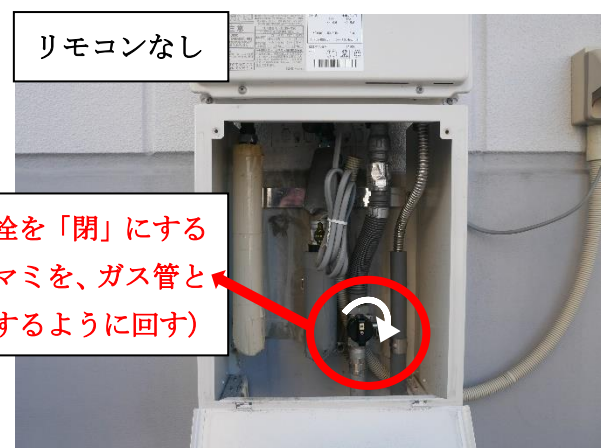
1. ガス給湯器のリモコンがある場合は、運転スイッチを「切」にしてください。

リモコンがない場合には、ガス給湯器のガス栓をしっかりと閉めてください。

(次の2を行うことによりガス給湯器が燃焼する可能性があるため)



リモコンあり：運転スイッチ「切」



リモコンなし：ガス栓を閉める

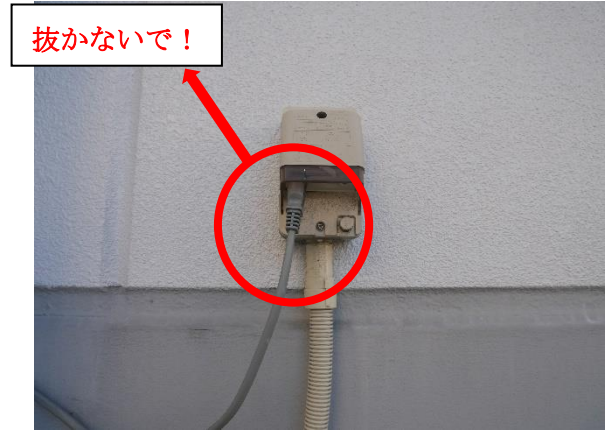
2. 給湯栓を開いて、少量の水〔1分間に約 400cc(太さ約4mm)〕を流したままにしてください。

※この処置による水道代は、お客さまのご負担となりますことをご了承ください（浴槽等で受けると洗濯などに再利用でき経済的です）。



※写真は混合カランの例

1分間に約 400 cc（太さ約 4 mm）の水を流す
（給湯側を開ける）



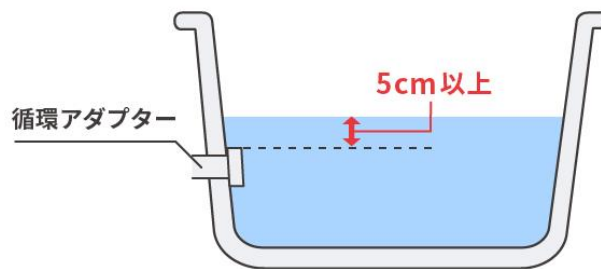
（注意）電源コンセントは抜かないで下さい

※凍結予防ヒーターが作動しなくなります

自動ポンプ運転について

機種によっては追いき機能付きふろがまの配管に自動で水を循環させることで凍結を防止する機能がついている給湯器があります。気温が 5℃以下になり、かつ、浴槽の水が循環口（水とお湯の出入り口）よりも上に残っていれば自動的に作動します※。自動ポンプ運転の凍結防止はあくまで給湯器と浴槽を循環している配管の保護となりますので、給湯器の水道配管部分の凍結防止には効果がありません。

※浴槽の水は、循環アダプター上部より 5 cm以上ある状態にしてください。



- ・凍結防止機能で給湯器内の循環ポンプが自動的に浴槽の水を循環させて凍結を予防します。5 cm 以下の場合は浴槽の水が循環しませんので、凍結防止機能が正常に機能しない可能性があります。
- ・凍結防止機能が作動すると、給湯器内の循環ポンプが運転する音（ウーンという作動音）がします。
- ・浴槽内の水がないと給湯器内の循環ポンプが空運転し、機器から大きな音が発生する場合があります。

万一凍結した場合

万一、配管が凍結した場合には、無理に溶かそうとはせず、自然に解凍するまでお待ちいただくことをおすすめします。また、水が出るようになっても、ガス給湯器本体や給水・給湯配管から水が漏れていないかなどを確認して、ご使用ください。

未入居の住居または長期間ご使用にならない場合

未入居の住居や、ガス給湯器を長期間ご使用になられず電源をお切りになられている場合には、給湯器内部の凍結防止のため、本体の水抜きが必要となります。詳しくは、取扱説明書をお読みいただくか、[ガスをご契約の販売店](#)にお問い合わせください。